「日々の理科」（第 2892 号）　2022,-7,-7

「七夕の日に（１）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所 研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

七夕の日が近づくと、「何かしたいな」と思う。七夕は日本古来の伝統行事の一つなので、学校でも大切にしたい活動の一つだからだ。

昨年度までは、竹の画を描いたボードを掲示し、短冊を貼らせていた。画の竹は枯れないし、活動後の処分も楽だからだ。

しかし今年度は、本物の竹が教室に来た。附属高校の竹を、用務の方が運んでくださったものだ。１年生なので、目に当たったりしないよう、教室を仕切るガラスパーテーションに斜めに設置して、そこに短冊を飾ることにした。しかし、竹は葉が萎れるのが非常に速く、あっというまに葉がカサカサになってしまった。それでも子どもたちは大喜びだった。

まだひらがなを学習中の子どもたちは、それでもいっしょうけんめいに「願い事」を書いていた。自分や家族のことが多いが、「うくらいな」という文字も結構見られた。子どもなりに不安なのだろう。

書き上げた短冊は、担任が設置した。一人で２枚も３枚も書く子どももいるので、結構大変だ。

短冊に穴をあけて、紐で吊るのでは手間も時間もかかる。そこで、ステープラーでバチバチ貼ることにした。これは正解で、数分で全部を飾り終わった。